花王　東京理科大との共同研究は社会実装見据え新たなフェーズに

花王は、東京理科大と2021年4月に共同研究契約を締結し、理科大初の共創プロジェクトである「花王Kireiな未来共創プロジェクト」を3年にわたり進めてきたが、契約期間満了に伴い活動を終了する。今後はより社会実装を見据え、新たなフェーズで連携していく。

東京理科大は、企業との連携による社会貢献を目指し、新たな価値の共創を推進する研究組織として、総合研究院に共創プロジェクトを2021年から設置。「花王Kireiな未来共創プロジェクト」は、その初のプロジェクトとして、すべての人と地球にとってより清潔で美しくすこやかな暮らしがかなう「Kirei」な社会の実現を目標に、同年4月から始動した。らくらくヘルスケア「バイオ燃料電池・バイオセンサに関する研究」、持続可能な清潔生活「泡の制御・機能化に関する研究」、健やかな日常生活「痛みの神経・分子メカニズムに関する研究」、ECOモビリティ「セルロースナノファイバー（CNF）強化樹脂複合材料の構造材料への適用に関する研究」の4分野で数多くの研究成果を学会などで共同発表し、一部の成果を実際の商品へ応用するなど、社会実装につながる活動を推進した。

一例として、持続可能な清潔生活分野では、「泡膜内の状態に着目した高品質な泡を作り出す技術の研究」に取り組んだ。身体洗浄料などには、洗浄成分として界面活性剤が使用されており、その量によって泡質や泡立ちが変わる。今回のプロジェクトでは、界面活性剤の使用量を抑えても心地よい泡を作り出すことを目指し、技術開発を行った。泡質を向上させるには、1つひとつの泡を作っている膜を安定させる必要があることはわかっていたが、これまでは膜の表面は解析できても、膜内を解析することは難しかった。今回、数十ナノスケールで分析できる理科大の先端分光技術を応用することで、初めて泡の膜内の状態を解析することに成功した。これによって泡の膜全体を安定に保つ技術を確立することができ、限られた界面活性剤量でも泡質と泡立ちを制御することが可能になった。

花王　2040年カーボンゼロ、50年カーボンネガティブへ活動加速

花王は、脱炭素社会の実現に向け、CO_2の「リデュースイノベーション」と「リサイクルイノベーション」に取り組むことで、事業活動に伴い排出されるCO_2を2040年までにゼロ、2050年までにネガティブを目指している。

同社は2019年4月にESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」を策定し、19の重点取り組みテーマを設定。2023年は脱炭素に貢献する活動実績として、日本における購入電力の100％再生可能エネルギー化を実現し、2025年までにスコープ1・2のCO_2排出量（絶対量）を28％削減するという中間目標を、2年前倒しで達成した。

スコープ1・2では、2023年も引き続き、省エネルギーな生産設備や脱炭素技術の積極的な導入、電力の再生可能エネルギー化を進めた。7月には、スペインにあるケミカルの工場内に花王として初めてとなるバイオマスを熱利用するプラントの建設を公表。これにより、工場からのCO_2排出量の95％削減を目指す。168ドル／トン－CO_2で設定した社内炭素価格制度の活用も国内外で継続している。

2023年は、和歌山工場の温水ヒートポンプ（2024年4月稼働）や、花王インダストリアルタイランドの太陽光発電設備（2025年1月稼働予定）の導入などを採択した。また4月には、コーポレートPPAの一種であり花王では初となるバーチャルPPAを採用。再生可能エネルギーの導入を進めることにより、2023年末時点で、日本における購入電力の100％再生エネルギー化を達成している。

これらの活動により、2025年までにスコープ1・2のCO_2排出量（絶対量）を28％削減するという中間目標を、2年前倒しで達成した。

300万人の少女たちへの支援を達成

クレ・ド・ポー ボーテ

資生堂のグローバルラグジュアリーブランド「クレ・ド・ポー ボーテ」は、ユニセフとのパートナーシップの更新初年度である2023年に、300万人以上の少女たちへの支援を達成した。これにより、2025年までに掲げる570万人の少女たちへの支援という目標が大きく前進した。

特に、ユニセフが実施する世界の女性や少女たちが21世紀の労働において必要とされるSTEM分野の知識とスキルを身に着けることを目指す「Skills4Girls（スキルズ・フォー・ガールズ）」プログラムがこの成功に大きく貢献している。

ユニセフ本部 民間協力渉外局のカーラ・ハダッド・マルディニ局長は、15～19歳で就学・就労・職業訓練を受けていない人の割合が男子の場合10人に1人であるのに対し、女子は4人に1人となっている現状を受け、「今や世界中の仕事の90％以上においてデジタル技術が不可欠だが、女性や少女たちがこの分野で活躍できる機会は非常に限られている。クレ・ド・ポー ボーテとのパートナーシップを更新した最初の年に、STEM分野における男女格差の是正に大きな進展が見られたことをとても嬉しく思う。これからも次世代の少女たちのエンパワーメントのために、このパートナーシップを継続していきたい」とコメントしている。

クレ・ド・ポー ボーテとユニセフのパートナーシップは2019年に始まり、2023年に更新された。このパートナーシップでは、2025年までにバングラデシュ、インドネシア、キルギス、カザフスタン、ラオス、ペルー、ベトナムなどの国々で、570万人の少女たちを支援することを目指している。このほど、ユニセフとクレ・ド・ポー ボーテの代表が、このパートナーシップの主な支援地域の1つであるバングラデシュを訪れ、その成果を視察した。

クレ・ド・ポー ボーテ チーフブランドオフィサーの橋本美月氏は、「バングラデシュのナショナルカリキュラム・教科書委員会への支援では、再設計されたジェンダーに配慮したスキルベースのカリキュラムと教科書を通じて、国家レベルで教育システムを変革し、21世紀に備えた学生を育成している。また、学校に通えない少女たちを支援するSkills4Girlsでは、このプログラムを通じて、彼女たち自身、家族、コミュニティを支えるために必要なスキルを身につけていくのを実際に目にし、非常に心を動かされた」とコメントした。

Skills4Girlsプログラムの参加者からは、「子どもの頃からコンピュータースキルを学びたいと思っていたが、経済的な理由で教育の中断を余儀なくされた。しかし、Skills4GirlsプログラムのコンピュータートレーニングコースのおかげでSkills4Girlsプログラムの参加者からは、「子どもの頃からコンピュータースキルを学びたいと思っていたが、経済的な理由で教育の中断を余儀なくされた。しかし、Skills4GirlsプログラムのコンピュータートレーニングコースのおかげでSkills4Girlsプログラムの参加者からは、「子どもの頃からコンピュータースキルを学びたいと思っていたが、経済的な理由で教育の中断を余儀なくされた。しかし、Skills4Girlsプログラムのコンピュータートレーニングコースのおかげで、多様なスキルを身につけることができ、今ではトレーナーとして働いている。私は女性が才能を発揮できないという思い込みを打ち砕いた。今やどんな制限にも縛られることはない」という声が寄せられ、支援を受けて自立を遂げ、誇りをもって前向きに日々の活動に取り組んでいる様子が伝わってきたという。

cosmetics in japan 日本の化粧品総覧

DIRECTORY OF PERFUMES COSMETICS TOILETRIES AND SOAPS

2024年版 好評発売中！

第１部　粧業界マーケティング戦略資料

1. わが国化粧品産業の現況と業態別動向
   (1)化粧品店　(2)薬局　(3)量販店
   (4)百貨店　(5)CVS　(6)訪販
2. 主なカテゴリーの動向(2022.7～2023.6)
   (1)スキンケア　(2)メークアップ　(3)ヘアケア　(4)男性用化粧品
   (5)フレグランス　(6)ファミリー＆ベビー　(7)レジャー＆エチケット
3. 化粧品の主な新製品(2022.7～2023.6)

第２部　主要メーカー別発売商品一覧

● 化粧品、フレグランス、トイレタリーメーカー（輸入品含む）
主要メーカーの全製品をライン、アイテム別（容量・価格）に掲載。

■本体 9,900円（税込）別途送料800円　■体裁 B５判 150頁

株式会社 週刊粧業
電　話：03（3836）2601
ＦＡＸ：03（3836）2602
E-mail：letter@syogyo.jp

申込書

2024年 cosmetics in japan	数量	冊
住所	〒	
氏名		
電話	FAX	